令和元年度発掘調査結果

市内では、250カ所を超える遺跡が確認されています。
令和元年度に行った発掘調査13件、試掘・確認調査25件のうち、２件の調査結果を紹介します。

本證寺境内（野寺町）

本證寺は鎌倉時代後期（13世紀末頃）に慶円（きょうえん）によって開かれたと伝わる浄土真宗の寺院で、二重の堀（内堀・外堀）と土塁に囲まれています。平成27年に国史跡に指定されました。これまでに周辺の発掘調査を18回行っており、今後の本證寺境内の保存、整備、活用に向けた遺跡の基礎情報を得るための学術調査を行いました。

調査結果１（調査区２）　庫裏（くり）（※）北側で戦国期の溝を発見！予想していた外堀は見つからず…

※庫裏…寺院の台所を兼ねた僧侶の居住する場所

江戸時代後期の伽藍（がらん）（寺院の建物）絵図に描かれた、庫裏北側にあると想定されている堀や道の正確な位置や規模を確認するため調査しました。

調査では、浅い溝や道路が見つかりましたが、敵の侵入を防ぐための「堀」と言えるものは見つかりませんでした。これらを踏まえ、庫裏北側の外堀は想定と違う位置にあるのか、今後も調査と検証が必要です。

■外堀・内堀の範囲　■令和元年度調査位置
本證寺「寺内」復原図と調査位置図

調査結果２（調査区３）　道路跡は寺内への出入口発見のヒントに

本堂南西で、東西方向にのびる外堀（幅7.8m、深さ2.0m）や、その南側に江戸時代後期以降の道路の跡等が確認されました。堀の底から戦国期の鍋や皿、その上の層から江戸時代後期の瓦等が出土したことから、戦国期の堀が埋まった後、江戸時代後期に再整備されたと考えられます。

外堀南側の道路はいつ頃造られたか今のところ分かりませんが、地層から、少なくとも江戸時代後期には道が通っていたようです。調査前に想定していた寺内への出入口になる道路を発見したかと思いましたが、様々な考察の結果、想定していた道路とは違うものと判断しました。出入口の位置は想定していたよりも南または東側にあると考えられます。今後の調査の課題となりました。

文化財係　榊原 崚介（学芸員）

出土品

①軒桟（のきさん）瓦（江戸時代後期）　②丸瓦（江戸時代後期）
③内耳（ないじ）鍋（戦国期）　④灯明皿（とうみょう）（江戸時代後期）
⑤丸皿（戦国期）　⑥丸皿（戦国期）

三ツ塚遺跡・三ツ塚第１号古墳（古井町）

三ツ塚遺跡・三ツ塚第１号古墳は、碧海台地上に位置している古井町内の遺跡で、過去の調査によって周辺から古代・中世の集落跡が確認されています。都市公園計画に伴い確認調査を実施しました。

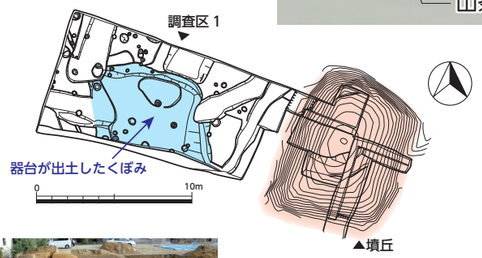
調査結果１　三ツ塚遺跡の周辺には集落が広がっていた！

三ツ塚遺跡では、奈良時代～平安時代の竪穴（たてあな）建物跡や掘立柱（ほったてばしら）建物跡、鎌倉時代の溝が確認されました。調査地の敷地内の至る所で建物等の跡や土器等が見つかったことから、広範囲で古代から中世の集落跡が広がっていることが分かりました。三ツ塚遺跡に接する井ノ池遺跡では、古代の集落跡や井戸、中世の火葬施設等が確認されており、二つの遺跡の関連がうかがえます。

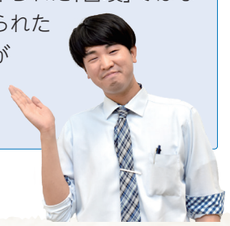
調査結果２　「三ツ塚第１号古墳」は「古墳」ではない!?

墳丘西側（調査区１）のくぼみから古墳時代の須恵器（すえき）の器台（写真①）が出土しました。器台は、愛知県内では古墳から出土することが多い出土品です。そのため、その付近に古墳があったと考えられます。

しかし、これらの出土品は三ツ塚第２号古墳又は三ツ塚第３号古墳に関連する出土品であると考えられます。三ツ塚第１号古墳は「古墳」ではなく「塚」と考えられるためです。



三ツ塚第１号古墳は、「古墳」と呼んでいるものの、これまで本当に古墳であるのかどうかの証拠がありませんでした。今回の調査で、墳丘（写真②）の盛土の一部から鎌倉時代の山茶碗が発見されたことで、古墳時代に作られた「古墳」ではなく、鎌倉時代に作られた「塚」である可能性が高いことが分かりました。



文化財係
河村 紀孝（学芸員）

文化振興課からのお願いとお知らせ

●家を建てる際はご一報を

遺跡は、安城で暮らした私たちの祖先の歩みを記憶した、かけがえのないものです。市では法律に基づき、開発等でやむを得ず破壊される遺跡の発掘調査を事前に行っています。住宅建設等の開発工事を行う計画があれば、文化振興課までお知らせください。

●調査成果の展示

今回紹介した調査結果等は埋蔵文化財センターで展示しています。調査や展示品を紹介するパンフレットも配布していますので、ぜひご覧ください。

▶展示日時
㈫～㈰午前９時～午後５時（月曜日が祝日の場合は開館）
※年末年始を除く。